

令和元年6月20日現在

機関番号：27401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02159

研究課題名(和文) 金朝初・中期道家道教思想の解明

研究課題名(英文) Analysis of Taoism in early and middle Jurchen Dynasty

研究代表者

山田 俊 (Yamada, Takashi)

熊本県立大学・文学部・教授

研究者番号：30240021

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は金朝初中期の道家道教思想の実態解明を目標とする研究である。金朝初中期の全体像を整理する意味で「金朝道家道教思想史年譜」を作成し、「金朝道家道教思想史研究之総括以及其再考」、「金朝道家道教石刻等資料劄記」等を執筆した。

一方、個別問題として、「金朝道教「真元派」再考」、「《淵源道妙洞真繼篇》の養生思想以及中醫文獻」、「金朝『道德經』注釈資料としての李霖『道德真經取善集』について」、「李霖：《道德真經取善集》思想初探」、「寇才質《道德真經四子古道集解》初探」、「《太上玉華洞章拔亡度世昇仙妙經》與六十一卷本《度人經》」、「『太上玄靈北斗本命延生經』について」等を執筆し、「年譜」と併せて報告書とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国金乃至元の道教史研究はこの時期に発生した全真教などの新たな道教を「新道教」と総称して、従来の道教と差別化し、それを異民族統治下に在った漢民族の改革意識が結実したものと理解してきた。これは陳垣『南宋初河北新道教考』の「民族史観」に由来するものであり、この史観が後に続く道教史研究をある意味でミスリードしてきた。

本研究は、この「新道教」の枠組みを見直すため、金朝のより早期の道家道教の実状を解明し、それが全真教等が誕生する基盤であったことを具体的に検証し、唐乃至宋の道教と金朝道教の連続性を指摘することで、従来の道教史観に見直しを迫る成果を得た。

研究成果の概要(英文)：Based on the fact that almost none of the conventional domestic and foreign studies of the Taoism in early and middle Jurchen Dynasty have already undergone, this research aims to analyse the actual condition of Taoism before the emergence of Quanzhen school which is one of Neo-Taoism.

In order to overcome this situation, it was necessary to overlook the overall image of the Taoism in the early and middle period of Jurchen Dynasty before the establishment of "Neo-Taoism" from a broader view independent from Quanzhen school. Therefore, in order to grasp what was regarded as a problem in early and middle Jurchen Dynasty, compiled detailed "Jurchen Taoism Chronology". Based on the overall overview, I examined documents that are clearly stated in Jurchen Dynasty and clarified the circumstances surrounding the compiler.

研究分野：中国三教交渉史

キーワード：道家 道教 金朝 宋代 全真教

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

中国近世道家道教史上の最大事件は、いわゆる「新道教」の一つである全真教が金朝後期において誕生したことである。そのため、従来の金朝道家道教研究のほとんどは金朝後期の全真教を対象とするものであった。全真教を中国道教史、あるいは中国思想史上に正確に位置づけるためには、全真教が成立する前の金朝道家道教思想史の具体的景観を、全真教を生み出した基盤として解明しなければならないのは言うまでもないが、従来の国内外の研究ではそれはほとんど未着手の状態であった。即ち、いわゆる「新道教」の一つである全真教が誕生する以前の金朝の道家道教思想史の実態の解明が長く求められる状況に在った。

## 2. 研究の目的

金末乃至元初に北方中国で誕生した全真教は、現在の中国大陸全土を埋め尽くすまでに発展したが、その成立背景については不明な点が多い。その大きな原因の一つは、全真教成立以前の金朝道家道教の検討がほとんど着手であった点にある。例えば、近年の中国では、金朝儒教研究・仏教研究は早くから着手され、金朝科学の研究に各論が報告されている。その一方、

- ・南懷瑾『中国道教発展史略』( 考古文化事業公司、1987 年 )
- ・卿希泰『中国道教史( 修訂本 ) 第三卷』( 四川人民出版社、1996 )
- ・任繼愈『中国道教史【増訂本】下巻』( 中国社会科学出版社、2001 年 )
- ・窪徳忠『道教史』( 山川出版社、1977 年 )
- ・横手裕『道教の歴史』( 山川出版社、2015 年 )

等の内外の代表的中国道教通史書は何れも金朝道教としては主として全真教のみを考察の対象とし、「金朝道教」=「新道教(特に全真教)」という観点でしか成果を挙げてこなかった。こうした状況では、全真教を正確に思想史上に位置付けることが出来ず、全真教を基準とした金朝道教史しか構築することができなかった。この「新道教(主として全真教)」を軸とする金朝道教研究という枠組みを打破し、道教思想史の実態に即する形で、特に金朝早期の道教思想史を再構築することを本研究の目的とした。

## 3. 研究の方法

上記「研究の目的」の達成、即ち、「新道教」成立以前の金朝初中期の道家道教の全体像を、全真教から離れてより広い視野から俯瞰するために、金朝初中期に於いて何が問題とされていたのかを整理する必要があった。そのため、先ず、詳細な「金朝道家道教思想史年譜」を作成した。この「年譜」を作成することで、早期金朝道教史の全体像の俯瞰が可能になった。同時に、全体像の俯瞰のみでは、個々の思想が持つ個別性が削ぎ落とされる危険性を伴う。その場合の最大の問題は、金朝という時期の道家道教像が具体的に把握されていないことに在る。そこで、全体像の俯瞰を踏まえた上で、金人の撰であることが確認される道家道教個別文献を具体的に検討し、その編纂者を取り巻く思想的状況を明らかにした。

## 4. 研究成果

早期金朝道教の全体像を明らかにし得る成果として、「金朝道家道教思想史年譜」を作成し、併せて「金朝道家道教思想史研究之总括及其再考」「金朝早期道教石刻與文献資料解析」等の全体像を俯瞰する論考と、個々の道教思想に関する論考を執筆した。

これらの作業により、

- ・北宋以前の道家道教思想は、北宋と対峙し征服した金朝初中期にどのように継承されていた

のか？

- ・南宋と金朝の道家道教思想はどのように関わるのか？
  - ・金朝初中期の道家道教思想は金朝後期の全真教にどのように継承されていくのか？
- 等を改めて実証的かつ客観的に検証することが出来た。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

- 1, 山田俊, 「金朝早期道教石刻與文獻資料解析」, 『台湾師範大学学報』64(1), 査読有, 2019, pp. 31-54
- 2, 山田俊, 「寇才質《道德真經四子古道集解》初探」, 『熊本県立大学文学部紀要』第 25 卷, 査読無, 2019, pp.1-59
- 3, 山田俊, 「《淵源道妙洞真繼篇》の養生思想以及中醫文獻」, 『正学』第 6 輯, 査読有, 2018, pp.125-144
- 4, 山田俊, 「『草衣子』小考」, 『名古屋大學中國哲學論集』第 17 号, 査読無, 2018 年, pp.51-66
- 5, 山田俊, 「金朝道教『真元派』再考」, 『熊本県立大学文学部紀要』第 24 卷, 査読無, 2018, pp.120-142
- 6, 山田俊, 「《太上玉華洞章拔亡度世昇仙妙經》與六十一卷本《度人經》」, 『正學』第五輯, 査読有, 2017, pp.91-101
- 7, 山田俊, 「李霖:《道德真經取善集》思想初探」, 『正學』第四輯, 査読有, 2016, pp.289-305
- 8, 山田俊, 「金朝『道德經』注釈資料としての李霖『道德真經取善集』について」, 『熊本県立大学大学院文学研究科論集』第 9 号, 査読無, 2016 年, pp.1-22
- 9, 山田俊, 「金朝道家道教思想史研究之總括以及其再考 以時雍『道德真經全解』爲例」, 『回顧與展望: 青城山道教學術研究前沿問題國際論壇文集』, 査読無, 2016, pp.276-291

〔学会発表〕(計 8 件)

- 1, 山田俊, 「金朝早期道家道教石刻資料與傳世文獻資料」, 出土文獻與域外漢學國際學術研討會, 2018
- 2, 山田俊, 「寇才質《道德真經四子古道集解》初探」, 第六屆新子學神明文化國際學術大會, 2018
- 3, 山田俊, 「中國《老子》注釋史上的《文子》」, 2018 中国・渦陽 老子與道文化國際學術研討會, 2018
- 4, 山田俊, 「『黄河逆流』兩種」, 第十屆宗教生命關懷國際學術研討會, 2017
- 5, 山田俊, 「《淵源道妙洞真繼篇》の養生思想以及中醫文獻」, 第四屆國際道教論壇, 2017 年
- 6, 山田俊, 「李畋:《道德經疏》初探」, 第一屆老子與道教文化國際論壇, 2017
- 7, 山田俊, 「所謂金朝道教『真元派』に就いて」, 第 17 回遼金西夏史研究会大会, 2017
- 8, 山田俊, 「注釈資料から見る金朝道家・道教思想」, 応用科学史学研究会第 16 回研究集会, 2016

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6 . 研究組織

(1)研究分担者 無し

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者 無し

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。